

橋下徹市長に2013年度予算要望

くらし・営業・福祉・教育・環境を第一に

10の柱、350項目の提案

- 1 くらし・健康・福祉を最優先に
- 2 原発の即時廃止、震災・防災対策を
- 3 地下鉄民営化をやめ、公営交通を拡充させる
- 4 憲法と子どもの権利条約にもとづく教育をすすめる
- 5 雇用と中小企業・業者の経営対策拡充を
- 6 巨大開発優先を改め、住みよい街づくりを
- 7 安心・安全・低廉な水道事業を
- 8 「大阪都構想」は撤回し、清潔・公正な市政に
- 9 同和行政の完全な終結を
- 10 平和施策の推進



詳細は、日本共産党大阪市議員団のホームページをご覧ください。



日本共産党大阪市議員団（8人。北山良三団長）は12月25日、2013年度の「大阪市予算編成と当面の施策に関する要望」を橋下徹市長あてに提出しました。

要望は、景気の低迷、社会保障の改悪、非正規雇用・不安定雇用の拡大など、貧困と格差が広がるなか、福祉の増進をはかるのが大阪市の役割だと強調しています。

議員団は、3年間で400億円近い市民向けサービスを削減する「市政改革プラン」は撤回し、大型開発などムダをはぶき、くらしと営業の活性化に力点を置くよう、強く求めました。

市民本位の改革へ 抜本的なきりかえを

西淀川区では、
区民の運動で

「赤バス」の代替案決まり4月から運行へ 「敬老バス」も利用が可能



大阪駅バスターミナル

敬老バスは
「バカみたいな政策」
(橋下市長)

橋下市長は総選挙前の全国遊説で「大阪市なんて僕が市長になるまで地下鉄もバスも高齢者は全部タダ。こんなバカみたいな政策をずっとやり続けている」と言いはなりました。市長選挙の公報では、「敬老バスは維持」と公約してはいたはず。本音をかくして有権者の支持をかすめとったと言われてもしかたありません。

大阪市を解体し、市民サービスを根こそぎ切り捨てる橋下市長の方針によって、地下鉄は2015年4月から民営化がねらわれています。市バスは、それ以前に、88路線を民間に売り払うとされています。地下鉄・市バスは長年にわたって築かれた市民の大切な足です。地下鉄と市バスが一体に運営されてこそ、安全が守られ、利便性が保障されます。

また、「赤バス」については、今年の4月からすべて廃止する方針が示され、その代替え措置は各区長の裁量にゆだねられました。

西淀川区では、区民の強い要望と運動の結果、民間事業者にマイクロバスの運行が委託され、運賃はこれまで通り1回100円、敬老バスを持っている方は、乗車の際提示すれば、無料で乗車できることとなります。

市バスの廃止をやめ 地下鉄と一体で運営を

公営交通を守り充実させる

日本共産党の提案



- 地下鉄の民営化は撤回する
- 市バスの民営化・廃止をやめる
- 赤バスは運行を継続する
- 地下鉄の初乗り運賃値下げ、混雑時の増便など利便性を高める
- ホームドアや可動式ホーム柵設置などバリアフリー化を進め、安全を守る

市民のみなさんの足を守るため全力でがんばります。日本共産党 大阪市議員団



北山良三
(西淀川区)

団長／民生保健委員会
大都市税財政特委



山中智子
(城東区)

幹事長／財政総務委員会
大都市税財政特委



井上ひろし
(住吉区)

政調会長／文教経済委員会
／市政改革特委



てらど月美
(淀川区)

計画消防委員会副委員長
環境対策特委



尾上やすお
(西成区)

計画消防委員会委員長
市政改革特委



岩崎けんた
(東淀川区)

交通水道委員会



こはら孝志
(大正区)

建設港湾委員会
環境対策特委



小川陽太
(平野区)

財政総務委員会